

早稲田大学 教育学部 政治・経済 講評

〔総合分析〕

出題形式	記述式
試験時間	60分
特徴・その他	大問4問の構成は例年と同じ。選択肢・適語補充問題ともに専門的内容まで踏み込んだ問題も多く、全体的に難易度が高い。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
[I]	地球環境問題	(1)・(3)は地球環境問題に関連する教科書・用語集レベルの一般的知識を問う問題。(2)は人間環境宣言の内容までふみこんでおり難問。	標準
[II]	政党制・構造改革	(1)ドイツのメルケル政権の大連立内閣，イタリアのプロディ政権の成立などは時事的な知識が必要。(2)のジニ係数に関連する問題は「格差社会」とも言われるわが国の現況に照らせば推察できる。	標準
[III]	労働問題 社会保障制度	(2)は労働問題に関連する用語や近年の労働形態に関連する時事的内容を問う問題。空欄6の統計値に関する問題は難しい(2005年の日本の労働力人口は6650万人，近年の外国人労働者は不法就労者を含め90万人と推定される)。	やや難
[IV]	国内総生産 国際収支	(1)は国民経済指標に関する基礎的知識を問う問題。(2)ーハは，わが国の国際収支の動向に関する問題。2005年には，初めて所得収支の黒字幅が貿易黒字を上回った。(2)ーホは難問。	やや難

〔総合コメント〕

<p>統計値や時事的内容に関連する難問が，各問にあるものの，大半は教科書・資料集・用語集レベルの確実な知識が問われている。</p> <p>各大問中にはそれぞれ，難問が散見される。しかしそれ以外の問題の多くは基礎知識をふまえた上での設問であり，これらの問題で失点しないことが重要。</p>
